

3. 寄稿：変化多き時代、どう生きるか

NPO 日本キャリア・コンサルタント協会(JCCA) 前理事長 三谷晃一

(1) 専門家としてのキャリア

NPO 日本キャリア・コンサルタント協会 (Japan Career Consultant Association) は、2004年の発足以来「キャリアコンサルティング」の歴史とともに歩んでまいりました。

今年の 11 月に 20 周年を迎えるにあたり、創立メンバーとして感無量のものがあります。「キャリアコンサルティング」は、2016 年に国家資格となり、キャリアコンサルタントを名乗れる人がかなりのスピードで増えてきました。その必要性和有効性は各現場で認識され徐々にではありますが、ようやくこの資格の認知度が上がってきたように思います。

(2) キャリアコンサルタントとしての思い、使命

キャリアコンサルティングは世相の変化を敏感に反映します。この 3 年、「新型コロナウイルスの感染拡大」、「ロシアのウクライナ侵攻」や「イスラエルのガザ侵攻」が世界を大きく変えました。昨日「YES」としていたことが翌日には「NO」となってしまういわゆる「諸行無常」の世界がたった今、現出しています。

こんな時に、私たちはどう働いていけばいいのでしょうか、どう生きていったらいいのでしょうか？ 何を道標にしていったらいいのでしょうか？ 一人ひとりの人間が抱えている共通の悩みがここに 있습니다。私は、こんな時こそ原点に戻り、混乱している頭の中を整理してみることが大切ではないか、と思います。

そこで、真っ先に思い浮かぶのが、「いつでもどこでも誰でもが学べ、やり直しができ、その人らしく生きる社会の実現」という JCCA のミッションです。これは我が団体の恩師故木村周先生（元筑波大学教授）が提唱された言葉です。この変化多き時代に今こそ私達 JCCA は原点に戻り、この言葉の意味をかみしめ実践していくことが私たちの進むべき道、使命だと思っています。

会った時に「縁」が始まり（いつでも）、生活のすべての場面がキャリアの生きた勉強場所であり（どこでも）、人種や性差別などの偏見や先入観が一切なく（だれにでも）平等に学習の門戸が開いているのが「キャリア」の世界です。

(3) キャリアコンサルタントとして伝えたいこと

リストラされた会社員、大病を患った会社員、ひとり親の母親・父親、障がい者、生活困窮者、生活保護者、LGBT などを含む社会から弱者と言われている人たちが、一度や二度の失敗で人生に失望してしまうことなく、生きがいと潤いをもって生きていけるように。その人らしい生き方を見つけ自立して自分主役のシナリオをつくりそれを実践していけるように。何回もゴールや道程を変化に対応して書き換えていけるように。私達 JCCA は、このような

人たちが自分の人生を自分でデザインし実践していけるように、キャリア形成やキャリア設計を継続支援し、健全な社会の実現に邁進しています。

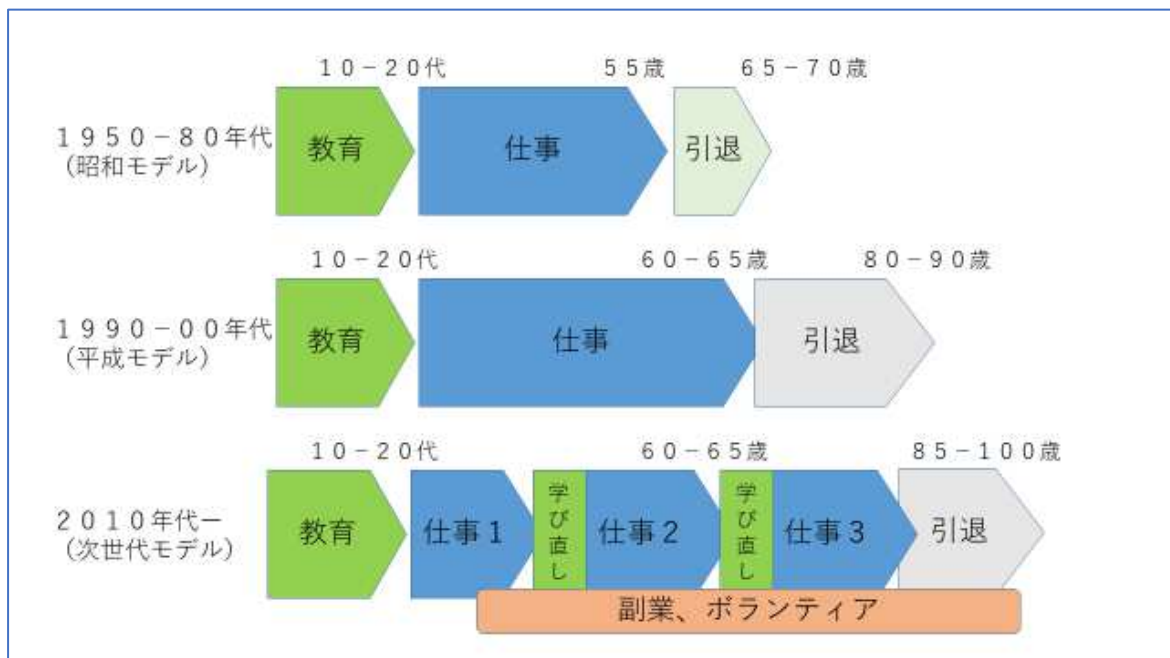
「キャリアコンサルティング」は職業の選択だけではなく、人生全般を視野に入れ「生き方そのもの」をどう表現するか、という「ライフキャリア」の視点をも含む相談業務です。そして、それは1対1の個別対応から、組織などに対して能動的に「環境を変える」という影響力を持つことを必要とされております。JCCAは前述のミッションを軸に、今後も質の高い「キャリアコンサルティング」を実施・展開してまいります。

アフターコロナ、人生100年時代、AI時代と言われ、「一人ひとりの生き方が確実に問われる自主性の時代」が到来しました。このような背景および考え方により、テキスト「新しい就職活動の仕方一竹の節を作ろう一改訂7版」を2023年10月発刊致しました。こんな世の中だからこそ、この「竹の節」改訂7版が世の人のお役に立てるものと信じております。

テキストのポイントは次の通りです。

テキストのポイント1

下図は、昭和、平成、そして次世代のキャリア（人生）モデルです。まず1950-80年代の昭和モデルでは、20歳前後から仕事を始め、55歳頃に引退し、65-70歳で寿命を迎えました。次の1990-2000年代の平成モデルでは、寿命が延び、会社の定年も延びたため、60-65歳まで働く人が増えました。いずれのモデルも、多くの人は、一つの仕事を数十年続ける場合が多かったのです。



しかし、現在は、グローバル化やテクノロジーの進歩により、会社や仕事の変化が激しくなってきました。個人は60年近く働かなければいけないのに、会社の寿命は30年と言われていいます。仕事の内容も、どんどん変化しています。

そこで、人生 100 年時代には、次世代モデルのような考え方が必要になります。人生が、教育・仕事・引退の「3ステージ」だったものが、「マルチステージ」になっていきます。つまり、ある仕事を経験した後、「リスキリング（学び直し）」をして別の仕事に就く、または仕事をしながら、自分の仕事のさらに難しい側面を学んで「技能の向上」をめざす、というようなことを、複数回、繰り返していくイメージです。副業を持ったり、ボランティアや地域活動で、仕事とは別のキャリアを持ったりする人も増えるでしょう。

一人ひとりが、長い人生を充実させるために、時代の変化に合わせて、自律的かつ柔軟に、自分のキャリアを考えていく必要があるのです。

テキストのポイント 2

自己理解（第 1 章）が非常に大切で、具体的な方法（チェックシート類）を記載。

価値観の把握

順位	価値観	○ 大切にしたい意味	× 犠牲にした意味
	時間	時間的余裕を持つ。自分で自由に使える時間を持つ。時間的に自由になる。	時間的拘束が増える。自分の自由な時間が少なくなる。
	視野	経験や知識を広げる。視野を広げる。知識を豊かにする。	視野を広げる機会を失う。知識が増えない。新しい経験ができない。
	お金	金銭的報酬を得る。経済的に安定する。収入・資産を増やす。	経済的不安定になる。収入・資産が減る。収入・資産を増やす機会を失う。
	出世	地位が上がる。名声を得る。	出世できない。今までの地位・名声を失う。
	ストレス	ストレスを受けない。ストレスや不安が減少する。気楽な状態でいられる。心理的圧迫を受けない。	ストレスを受けてもよい。ストレスや不安が、高まってもよい。心理的圧迫を受けてもかまわない。
	安定	今の身分や立場を守る。社会的に認められた組織の一員になる。	立場や身分を気にしない。所属する組織がなくてもかまわない。
	人間関係	人間関係が広がる。人脈づくりができる。	人間関係が狭くなる。人脈ができない。今までの人間関係を失う。
	家族	家族と一緒にいる時間を増やす。家族の世話をすることができる。	家族と一緒にいる時間が少なくなる。家族の世話ができない。
	自分らしさ	自分の個性を発揮できる。自分のやりたいことを大切ににする。	個性の発揮を犠牲にする。自分のやりたいことができない。

テキストのポイント3

相手理解（第2章）も大切で、リスキリング（学び直し）などを記載。

「リスキリング（学び直し）の大切さを知ろう」

職業能力の再開発や再教育を指す「リスキリング（学び直し）」。

第1章でも仕事の内容がどんどん変化していく中で、ある仕事を経験した後、「リスキリング（学び直し）」をして別の仕事に就くことを繰り返していく、キャリアを積んでいく大切さが書かれています。

特に、近年はデジタル時代や DX 時代の人材戦略に不可欠なものとして取り上げられることが多く、就職・転職希望者や、従業員がこれらの新たな知識・スキルを習得するリスキリング（学び直し）への注目が高まっています。

□リスキング（学び直し）に役立つ主な検索サイト

マナビDX <https://manabi-dx.ipa.go.jp/>



DX を推進する人材に必要な様々なスキルが学べる講座が検索できるサイト。経済産業省と情報処理推進機構(IPA)が運営しています。デジタル人材育成を目的としており、民間事業者や大学などが実施するオンライン講座や実際の講習など400以上の講座情報が掲載されています。利用者登録もログインも必要ありません。キーワード検索して講座を探すことが可能です。

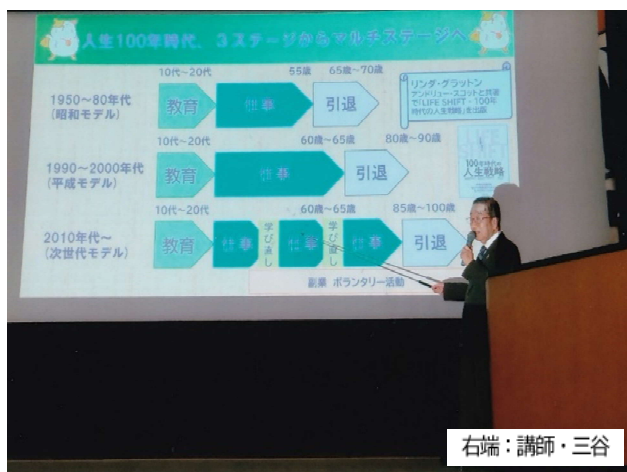
マナパス <https://manapass.jp/>



専門学校や大学・大学院などで本格的に学び直したい社会人向け講座が検索できるサイト。文部科学省が運営しています。ビジネス、語学、資格取得など実用性が高い講座のほか、趣味や教養も含む幅広い講座を紹介しています。

テキストのポイント4

テキストを使ったセミナー開催（神奈川県等の依頼で実施）また、職業訓練校のテキストとして活用されています。



右端：講師・三谷



中央：講師・三谷